

令和5年度 第1回 三島市青少年問題協議会 会議録

1 開催日時 令和5年7月13日(木) 午後2時～午後3時30分

2 開催場所 三島市民生涯学習センター3階 講義室

3 出席者

(1) 会長 豊岡武士三島市長

(2) 委員 藤江康儀三島市議会議長、長橋浩幸三島警察署生活安全課長、安藤宏通三島市教育委員、高橋健二静岡県立三島北高等学校校長、鈴木久美子静岡県立三島南高等学校校長、石垣智博静岡県立三島長陵高等学校校長、長谷川光宏三島地区保護司会副会長、宮川紀代美三島市民生委員児童委員協議会会長、長島信行三島市民生委員児童委員協議会理事、永井明三島市PTA連絡協議会会長、鎌野史子三島市PTA連絡協議会家庭教育委員長、浅井由美子三島市交通安全保護者の会連合会会長、篠原誠三島市子ども会連合会会長、村松日出子三島市中央女性学級運営委員、相磯悦子いきいき友の会副会長、森章子三島市地域活動連絡協議会会長、上條猛ボーイスカウト伊豆地区地区委員長、宍倉睦美ガールスカウト三島地区連絡協議会会長、小塚英幸三島市教育長、佐野文示三島市健康推進部長、水口国康三島市社会福祉部長、鈴木隆幸三島市教育推進部長

(3) 事務局 若林光彦生涯学習課長、稲木修二女性青少年係長、上田康博指導主事、渡辺美保子主任、武藤知之副主任

杉山慎太郎教育総務課長、中村雅志学校教育課長、辻真人文化財課長、加藤裕子文化振興課長、高田紀彦福祉総務課長、渡邊由美子育て支援課長、浅見徹哉健康づくり課長、勝又誠スポーツ推進課長

4 会議の公開・非公開の別 公開

5 傍聴人の人数 0人

6 委嘱状及び任命書交付

新委員12人を代表して藤江康儀三島市議会議長に委嘱状を交付

7 会長あいさつ

会長である三島市長からあいさつが行われた。主な内容は次のとおり。

- ・委嘱状について全委員を代表して藤江委員にお渡しした。
- ・当協議会は、地方青少年問題協議会法に基づき開催するもの。
- ・総務省によると、令和5年6月1日現在の15歳未満の子どもは1,431万人、前年比29万人減少し、全人口の11.5%で少子化が進んでいる。

- ・三島市の15歳未満の子どもは1万2,295人、人口比11.6%で、前年よりかなり減少し、少子化の進行は深刻な問題となっている。
- ・子どもたちが、健やかに成長することができるよう、子育て支援や青少年健全育成事業、地域学校協働本部事業を行っている。
- ・子ども若者の健やかな成長と自立に向けた支援は、地域、家庭、学校行政など、社会全体が一体となって取り組むことが必要と考える。

8 副会長選出

副会長として小塚教育長を選出した。

9 協議事項

(1) 令和4年度青少年育成保護事業報告について

(2) 令和5年度青少年育成保護事業計画について、関係各課長より説明

※ 「資料（各課の青少年育成保護事業）」より

関係各課長からの説明がなされ、会長の指名により、GIGAスクール推進に関し、教育総務課長から説明がされた。主な内容は次のとおり。

- ・小中学校へ1人1台端末が配備されて、現在3年目を迎え、本市の目指す姿である「Society 5.0を生き抜く力を育成する」を実現するため進めている。
- ・児童生徒、教職員用にタブレット端末9,030台を配備し、情報機器運用管理業務委託料として、タブレットレンタル代、LTE通信代、有料アプリ、ヘルプデスク等について、令和3年3月から令和8年3月までの61カ月で総額10億9,000万円で包括的に委託している。
- ・端末はApple社製iPad、第8世代32ギガLTEモデルで、修学旅行や校外学習等の場面でもかなり積極的な活用が見られているという状況である。
- ・また、紛失した場合でもGPS機能がついているため、端末を探すこともかなり容易になっている。
- ・LTE回線のメリットは、学習者の学びを通信事情によって止めないことである。
- ・現在では、授業のみならず、生徒会活動や部活動等で活用されている。
- ・教員の働き方改革の面において、今まで紙資料で配付していたものが、端末を通じて即時に配布することができるようになり、印刷に費やす時間が大幅に削減できた。
- ・今後、デジタル教科書が導入された場合のメリットとして、拡大表示、音声による読み上げ機能等、障害のある児童生徒にも有効であるとされている。

引き続き、学校教育課長から補足的な説明として、GIGAポータルサイトを活用し、児童生徒の心の悩み相談を行っており、直接先生に相談できない場合も24時間いつでもタブレットを通じて相談できる取り組みで、昨年度は20数件ほど相談があったことが報告された。

また、会長より、情報モラル・デジタルシティズンシップ教育の充実を図っていく重要

性について言及があった。

続いて、各委員から事前に提出されていた質問事項について、関係各課長から回答がされた。

- ・学校教育課長より、不登校の理由についての質問に対し、小中学校とも無気力、不安、家庭が多くを占めており、中学校においては、さらに学業不振、友人関係、入学転編入学進級時の不適応が加わっているとの回答が行われた。
- ・生涯学習課長より、三島市中学生の主張大会への参加について、毎年、広報みしまの6月1日号及び市公式ホームページで参加募集するので確認するよう回答された。また、青少年相談室の電話相談、面接相談は、友人関係、人間関係の悩み、家庭環境、不登校が主となっている。青少年相談室として、「傾聴」と「寄り添い」そして関係機関との連携によって対応している旨回答された。また、ボーイスカウト、ガールスカウト運動との連携について、青少年健全育成のためのあいさつ運動及び青少年補導活動への参加とともに、社会教育イベントでの指導員としてさらに参画してほしい旨の回答を行った。
- ・福祉総務課長より、ヤングケアラーについて、民生委員児童委員活動で情報が入った場合には子育て支援課と共有している。また、研修会も行い、正しい理解と知識の習得等に努めているとの回答を行った。

10 情報交換

「管内の少年非行の現状について」との議題で三島警察署生活安全課長から情報共有がなされた。主な内容は次のとおり。

- ・昨年の三島警察署管内での非行の検挙について、増加傾向にある。
- ・刑法犯等について、架空請求詐欺の受け子ということで検挙している。
- ・特別法犯の検挙は、自撮り画像をインターネットに上げたこと、新幹線の線路の中に立ち入った等である。
- ・補導状況については、たばこや深夜徘徊が補導の対象となる。
- ・行為種別では小学生は家出、怠学、中学生は深夜徘徊、喫煙不良交友、高校生は深夜徘徊、不良交友、喫煙という状況だった。
- ・SNSのトラブルについては、警察では重視して取り組んでいる。
- ・サイバーパトロールについて、出会い系、パパ活等の事件を掘り起し等で対応。
- ・三島駅南口で年少者を雇用していたという社交飲食店を検挙している。
- ・三島駅南口の風紀が少し乱れているということで、今後も強力な取り締まり体制を継続し、伊豆の玄関口として安心できる環境を作っていくたい。

続いて、質疑応答が行われた。主な内容は別紙のとおり。

- ・委員より、おたまちゃん食堂を利用するヤングケアラーが増えていると聞いているが、

市の補助や援助に対しての考え方について質問があった。これに対し子育て支援課から、子ども食堂の補助に関し、物価高騰等により、困っている家庭がかなり多い中で、活動費の補助について今年度対応するよう準備を進めているところであり、直接代表に案内させていただき旨の回答がなされた。

- ・会長より子ども会活動の状況について説明が求められたところ、子ども会連合会長から、核家族化や少子化で異年齢間での活動ができにくくなっており、また自治会を中心に地域行事も行われてはいるが、本来求められている子どもたち自身が自主的に考え行動するという子ども会のありかたとは大きな違いがあると認識している。加入率も市内全域で20%程度と低く、中身の行事も月に1度程度という状況である。若い世代の人間関係の醸成のため、社会の変化に即応した施策や新たな取り組みに期待している旨の説明があった。これを受けて会長から、行政のみでなく子ども会やPTA等も含めて、社会全体で子どもたちの社会性を育てていくことが必要で、非行のないよりよい社会になることを願っている。市ではウェルビーイングという元気で明るく楽しい社会の構築に取り組んでいる。企業もウェルビーイング経営をはじめだしており、今年度からウェルビーイングミーティングを行うため、ぜひ参加等いただき、三島の子どもがたくましく明るく成長していけるようにご協力をいただきたいとの発言があった。

1 1 閉会